

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		基礎柔道整復学・各論Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	第2校舎201
担 当 教 員		岩村 一成	実務経験と その関連資格	平成16年より後援院勤務。平成19年に柔道整復師専科教員免許取得。 平成24年より大阪ハイテクノロジー専門学校で勤務。 柔道整復師・柔道整復師専科教員・講道館柔道五段・認定実技審査員(整復・柔道)			
《授業科目における学習内容》							
臨床でよく目にする鎖骨、肩甲骨、肋骨骨折や頸部の軟部組織損傷などに関する損傷の発生機序、症状、施術方法、治療経過、予後について学習し、各損傷について、柔道整復師の施術範囲の鑑別や適応の判断や応急処置について理解し、各損傷に対する施術の適応の判断ができ、適応となる損傷について適切な施術を行えるようになることを目標とする。							
《成績評価の方法と基準》							
・後期末試験:90％ ・各項目ごとの小テスト:10％							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
・柔道整復学・理論編(改訂第7版:南江堂) ・柔道整復学・実技編(改訂第2版:南江堂) ・標準整形外科学(改訂第12版:医学書院)							
《授業外における学習方法》							
講義の内容確認の為、次回講義開始後、10分間を前回の講義復習時間とし、教科書、配布プリントの内容を中心に復習し、各項目ごとに小テストを実施。 学習したことを定着させる為、必ず毎回の講義範囲を復習すること。							
《履修に当たっての留意点》							
1年生の前期で総論が終了し、後期から柔道整復学各論となります。解剖学の骨筋の復習や機能解剖を学習し、骨損とは何か、軟部組織とは何かなど構造学的に学び、外傷である骨折、軟部組織損傷とはなにかを理論的に学習していき、柔道整復理論は暗記ではなく理屈を考え学習していきましょう。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の解剖学構造を理解する		柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料		
		各コマにおける授業予定	上肢の解剖学構造の復習				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折について理解する		柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料	講義の復習と次回講義の予習をしておく	
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩甲骨の骨折について理解する		柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料	講義の復習と次回講義の予習をしておく	
		各コマにおける授業予定	肩甲骨骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨近位部の骨折について理解する(1)		柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料	講義の復習と次回講義の予習をしておく	
		各コマにおける授業予定	上腕骨近位部骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨近位部の骨折について理解する(2)		柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料	講義の復習と次回講義の予習をしておく	
		各コマにおける授業予定	上腕骨近位部骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨近位部の骨折について理解する(3)	柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	上腕骨近位部骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨骨幹部骨折について理解する(1)	柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	上腕骨骨幹部骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨骨幹部骨折について理解する(2)	柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	上腕骨骨幹部骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨遠位部の骨折について理解する(1)	柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	上腕骨遠位部骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨遠位部の骨折について理解する(2)	柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	上腕骨遠位部骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕骨遠位部の骨折について理解する(3)	柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	上腕骨遠位部骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕骨近位部の骨折について理解する(1)	柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	前腕近位部骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕骨近位部の骨折について理解する(2)	柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	前腕近位部骨折についての概説、合併症、鑑別診断、整復法、固定法、後療法		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ(1)	柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料	後期全講義の復習をすること
		各コマにおける授業予定	後期講義の復習		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ(2)	柔道整復学(理論編)改訂第7版(南江堂) 配布資料	後期全講義の学生理解度を確認する
		各コマにおける授業予定	後期講義内容の学生の理解度の確認をする		